

## 縄文人と弥生人の出会い

～以下、中沢新一「大阪アースダイバー」＜抜粋＞～

山沿いの河内の村々に息づいている、その豊かさの源泉は、その土地を背後から抱き抱えている、緑豊かな生駒の山々に求めることができる。生駒の山麓には、大阪側にも奈良側にも、縄文時代からすでに、人の住むいくつものムラがつくられていた。ことに大阪側は、海につながる広大な河内潟を前にしていたこともあって、海の幸にも山の幸にも恵まれていた。縄文人たちは、河内潟の周囲に、数多くの貝塚を残している。

瀬戸内海沿いに、新しい弥生文化を携えた人々がやってくると、縄文系の人々は、この新来の人々を、ムラのはずれの一角に土地を与えて、迎え入れている（その様子が、発掘された遺跡の様子から、手に取るようにわかるのである）。

厚手の縄文土器と薄手の弥生土器が、同時に使われていた。結婚も頻繁に行われるようになり、しだいに、河内のムラムラには、縄文系と弥生系の混血からなる、原大阪人の顔つきをした住民が、増えていったと考えられる。

<この文書は、「**生駒の神話**」（下記 URL をクリック）に掲載されているものです。>

<http://ikomashinwa.cocolog-nifty.com/ikomanoshinwa/>